



ネイホウ 你好

香港日本人学校小学部
香港校だより
2017年 3月24日
平成27年度派遣 村上 大



早いもので、来港2年目の年度末を迎えています。昨年に引き続き、今年度も6年担任として、香港にて2回目の卒業生を見送りました。卒業した41名のうち、香港日本人学校中学部に進学する子は25名、残る16名は、帰国して日本の中学校への進学、また香港のインター校へ進学と行先はさまざまです。卒業式は涙、涙のお別れでしたが、式後は、今の時代の子どもらしく、すぐにLINE（ライン）やFacebook（フェイスブック）などのSNS（ソーシャルネットワークサービス）でつながって、連絡を取り合っているようです。多くの卒業生がビジネスマンの名刺交換ばりにメールアドレスやLINEのID交換を行い、担任の私も「先生のIDも教えてください」と尋ねられました。住所や電話番号ではなく、アドレスやID交換……。香港から世界各国に飛び立つ子どもたちならではの通過儀礼なのでしょうが、今までこのようなことは鳥取で経験したことが無かったので、正直なところ、とても驚きました。

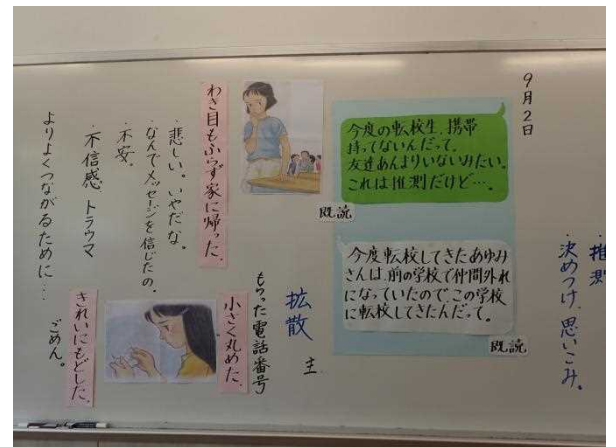


みんながつながって～よりよい人間関係づくりのために～

こうしたグローバル社会に生きる子どもたちの卒業を前に、インターネットモラルに関わる道徳の授業を行いました。香港という土地柄、スマートフォンの普及率は高く、授業前アンケートでは、学級の約半数の児童が自分専用のスマホを持っており、貸してもらって使用可能な保護者所有のものも含めると、7割強の児童が何らかの形でSNSを利用している実態がありました。そこで、インターネット・SNSの正しい利用法について確認するために行ったのが、『知らない間の出来事』という授業です。

『知らない間の出来事』は、文部科学省発行の『わたしたちの道徳』に掲載されており、日本全国の小学生も学んでいる教材です。SNSの普及により、小学生であってもインターネット上のトラブルの未然防止のためにソーシャルスキルをしっかりと身に付けさせることが大切な時代です。インターネット上のやり取りの中では、軽い気持ちで発した一言が自分の意にそぐわない形で相手に伝わってしまい、気付かぬうちに相手を傷つけてしまうこと、そして、何より怖いことは、ネット上に一度載ってしまった個人情報や写真を消すことは容易ではないうえ、拡散してしまうということなどを指導しました。

インターネットのおかげで日本と外国の距離が縮まり、世界との垣根は低くなった感がありますが、これからのグローバル社会における信頼し合える人間関係づくりのためにも、ネットモラル教育の必要性を強く感じる今日この頃です。香港だから行わなければならないということではなく、今の時代、日本全国どこでも、もちろん鳥取県においても小学生のうちから学んでおかななくてはならない事柄だと思います。



～2016年度 後期の香港校を振り返って～

香港日本人学校創立50周年記念式典

11月3日、「香港日本人学校創立50周年記念式典」が、銅羅灣のエリザベス体育館に於いて、香港小・中学部・大埔小・大埔小インターナショナルセクションの4校児童生徒とOB関係者をはじめとする1150人余りが一堂に会して盛大に行われました。オープニングセレモニーは、香港小の和太鼓クラブによる演奏演舞に始まり、在香港日本国総領事館首席領事の祝賀挨拶の後、各学校の紹介と50年間の歴史を振り返るスライドショーをバックに、未来への決意の言葉と音楽隊の発表を行いました。



1966年の開校当初は70人という少人数だった香港日本人学校。小学部・中学部が分かれる前は、幼稚園もあり、最大で1700人以上のマンモス校だったこと。イギリスから香港が返還された1987年に大埔(たいぼ)校が開校し、今年で創立20周年を迎えたことなど、様々な変遷を経て今日の香港日本人学校に至るまでの経緯を学びました。自校の歴史に誇りを持ち、未来に夢をつないでいく誓いを新たにしたい一日になりました。

能楽ワークショップ

12月12日、日本能楽協会の方々がお見えになり、能楽ワークショップが行われました。オープニングでは「岩船」の演目で能舞が披露されました。子どもたちは初めて見る能の世界に引き込まれ、グループごとに能楽師の方々から、笛や太鼓、大小の鼓(つづみ)の演奏の仕方を教えていただいたり、能面や衣装の着用体験もさせていただいたりしました。6年生は国語科『伝えられてきたもの』の学習で、現代でも楽しまれている伝統文化について学んでいる最中だったので、能と同じく室町時代に生まれた狂言「柿山伏」の音読にも、今回の体験が大変役立ちました。



横綱「白鵬」関の来校

2月7日に、第69代横綱、白鵬関が来校されました。身長192センチ、体重150キロの白鵬関の姿が体育館に現れると、その圧倒的な大きな体と横綱のオーラに児童全員が大興奮。横綱ご自身の体験談とともに、大相撲の歴史や四股(しこ)を踏むことの意味など、興味深いお話をたくさん聞かせていただきました。いつも人々の幸せを願って相撲を取っているということ、四股を踏むことでその土地の悪いことを踏みつけてなくすのだということから、東日本大震災の復興のための土俵入りをしたら余震がおさまったというエピソード、6歳のときに初代横綱若乃花との出会いがあったこと、祖国モンゴルのレスリングオリンピックメダリストである父に憧れ、小さな頃から夢を実現するために努力を重ねたのだというお話など、全員が真剣に耳を傾けていました。



来年度は、いよいよ派遣3年次となります。新年度、またどんな新たな出会いがあるか楽しみ

です。次回も香港ならではの行事や活動についてお伝えしたいと思います。